

活動団体名： 一般社団法人ゼロエミやまなし

20210213ver. 記入者名： 志澤美香

上位関連計画にみる地域の将来
 ○パリ協定における日本の目標：2013年度比で2030年までに26%削減、さらに2050年までに80%削減
 ○第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22~24%、
 2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量/実質GDP）35%減。
 ○現在の人口：42500人、将来：38125人（2030年）、32500人（2045年）（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））
 ○地域の総合計画に示された将来目標 現状：2013 年度 (21,566t-CO2) →目標：2030年度40%削減 (8,627t-CO2 削減)
 ○地域の環境分野の上位計画の将来目標 現状：●●→目標：●● (●年) 現状：●●→目標：●● (●年)

②具体的な取組
 ※誰が何をするのか、主なものをお書きください。
【事業1】 WS 1 地域電力会社について
【事業2】 WS 2 地域内電源の活用とグリスロモビリティ等の導入による二次交通の確保について
【事業3】 WS 3 使える！充電軽トラの開発について
【事業4】 WS 4 ITプラットフォーム

①ありたい未来
 ※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください
 ○2050年には『持続可能でwell-beingなCO2ゼロやまなし』が実現している。
 → ○2030年にはSDGsの目標が達成されて持続可能のめどがついている。
 ○2020年代には卒FITした太陽光発電や小水力発電等を電力源とした地域新電力会社ができ、超小型モビリティやグリーンスローモビリティがその電力で稼動し、地域の足として利用され、脱炭素な移動社会を実現している。
 ○地域でつくられる再エネとの共存が進み、地域で生活する為のエネルギーが、地域内で確保され、IT技術の革新により、それが人々に平等にシェアされるようになる。
 ○Society5.0技術により人々は地域の恵みを地域の人全員が平等に享受できるようになり、必要なところへシェアもできるようになる。
 ○計画的な地域資源の利活用が進み、美しい景観や、豊かな自然や、生物の多様性や、街並みや、歴史も、継承される。
 ○そして人々は、いきいきとして、楽しく笑顔である。well-being北杜が実現する。
 →

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	実績値 (2020年度末)	単位
環境	ジオデザインによる地域エネルギー見える化	ジオデザインワークショップの開催	1	1	1	回数
	EV軽トラの開発	EV軽トラの開発可能性の検証	検証完了	検証完了	検証完了	成果
	EV軽トラに関する勉強会・訪問の実施	勉強会・事業所訪問の回数	3回	3回	3回	回数
	野立て卒FITパネルの充電施設の整備	野立て卒FITパネルにコンセントを設置	1か所	1か所	1か所	場数
	野立て卒FITパネルでEV車を充電して利用する	EV車充電利用数	検証中	2台	検証中	台数
	地域新電力会社の勉強会の実施	勉強会の開催	2回	2回	2回	回数
経済	卒FIT電源を活用した新たな事業スキームの構築	地域自然エネルギー利用の構想	構想策定	構想策定	構想策定	成果
	超小型やグリスロモビリティを駅前やバス停等に導入した低炭素な二次交通の充実	超小型モビリティ、グリスロの必要台数	検討実施済	検討実施	検討実施済	必要
	ステークホルダーとしての参加協力事業者を集める	プラットフォームへの参加者数	20事業者	20事業者	20事業者	参加者数
	プラットフォーム構築	セッション・打合せ数	67	25	67	回数
	地域のPVとEVの電力取引の新たな方法が構築される	新電力、ISOUプロジェクト、新	2回	2回	2回	回数
	社会	地域住民と太陽光発電事業者のwin-winな関係性が構築	太陽光発電に関する関係者との対話	0	1	1
農業用のトラックの電気自動車化を開発による、脱炭素型の一次産業が実現		充電式軽トラックの導入検討	導入検討	導入検討	導入検討	成果
地域のブランド力向上による移住者に対する魅力向上		移住者調査により魅力の洗い出し	なし	調査実施	調査実施	成果
自然エネルギーの電力小売り事業・問題解決		環境省への問題の共有数	5点	5点	5点	数
WSの開催		ワークショップの開催数	4回	4回	4回	回数
EV車を利用した防災実験		実証実験回数	1回	1回	1回	回数

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2020年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
→ 環境	再生可能エネルギー活用によるCO2削減	CO2削減量	7.3%	7.3% (2013)	2030年	40%削減	%
	再生可能エネルギー利用が進んでいる	再生可能エネルギー利用率	-	-	2050年	100%達成	%
	景観に考慮した自然エネルギーの確保が出来る	ランドデザインを取り入れている	-	-	2050年	100%達成	%
	経済	卒FIT電源を活用した新たな事業スキームが構築	卒FIT電源の活用電力量 (今後検討)	-	-	2030年	100%達成
→ 経済	地域新電力による事業参画	事業検討し、指標も今後決める	-	-	2030年	-	-
	超小型・グリスロモビリティ等の導入	導入台数	3	3	2030年	500	台
	観光客が地域通貨 (SAMOカード) を利用	SAMOカード販売金額(5千円俵)	0	0	2030年	3億5千万	円
	社会	地域住民と太陽光発電事業者のwin-winな関係性が構築	太陽光発電に関する苦情件数	200	-	2030年	0
→ 社会	農業用のトラックの電気自動車化を開発による、脱炭素型の一次産業が実現	充電式軽トラックの導入台数	0	0	2030年	500	台数
	地域のブランド力向上による移住者に対する魅力向上	移住者数	46,508	40,000人	2030年	40,000人	人口
	北杜市内のEV車化の促進	EV車の保有台数(現在化石車21,000台)	-	-	2030年	15,000台	台数
	環境	地域住民と太陽光発電事業者のwin-winな関係性が構築	太陽光発電に関する苦情件数	200	-	2030年	0

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

<環境>短期目標：小型モビリティやEV軽トラを導入 → 長期目標：EV車の利用によるCO2削減
 短期目標：太陽光発電を扱う地域電力会社の構想を検討 → 長期目標：地域新電力の小売り業者となり、地域住民が利用できるグリーンエネルギーを促進し、再生可能エネルギー利用率をあげる
 <経済>短期目標：北杜の観光拠点をグリスロでつなぐ計画、観光用の地域通貨 (SAMOカード) の企画を進める → 長期目標：グリスロでの観光客移動により、CO2削減に加え、各拠点での経済効果があがる
 短期目標：電力を作る、使うを事業化検討する → 長期目標：地域に還元できるデジタル化を進め、エネルギーの地産地消による事業を構築、地域経済の循環と活性化を進める (Society5.0+SDGs)
 <社会>短期計画：住民に価値を提供する超小型モビリティやEV軽トラを導入 → 長期目標：EV車や家庭で太陽光発電等のグリーンエネルギーを利用することにより、
 ポイントが還元される。太陽光パネルに反対であった住民もグリーンエネルギーによる恩恵を得られることで、積極的にグリーンエネルギーを利用するようになる。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください